

栽培種目：キャベツ

キャベツの露地栽培で1株から年間3回収穫

チーム名：野菜の裏技栽培

氏名：藤原孝雄（1-E）

〈要約〉

キャベツの種を秋蒔きから始め翌春収穫して脇芽を育て二ヶ月ごとに同一株から3回ほど収穫する。害虫対策は防虫ネット掛けとし害虫の少ない秋蒔きから始める。収穫後の脇芽を育て収穫する。メリットは苗の定植は1回で良く生育が早い。2回目の収穫からは株ごとに生育がずれるので家庭菜園向きで長く収穫できる。とう立ちしにくい品種：『四季どりキャベツ(味星)株1-畝』を採用

1. 初めに

1年中キャベツは食卓にのり利用されるが一度に沢山取れると食べきれない、楽しんで長く収穫できる方法。苗の時期は青虫に食べられ生育が弱い脇芽だと生育が早く丈に育つ。多少葉が食べられても大株の為丈夫。春蒔き6月収穫、夏蒔き秋収穫、秋蒔き翌年春収穫があるが一番やさしく害虫対策が簡単な秋蒔き春収穫が良く、発芽が良く苗作りが1回で楽。

2020年と2021年の栽培を報告します。

2. 方法及び実施記録

2019年10月に種から苗を育て11月中旬に定植して2020年4月頃から収穫する



↑・15株程の畝に防虫ネットを掛けるだけ
(2020年4月)



↑ 1回目の収穫後の脇芽 (4/25)



↑ ・2回目の収穫後2枚ほど葉を残して切り取る。化成肥料を追肥 (5/27)



↑ 収穫後は葉を2枚残し切り取り追肥 (5/27)



↑ ・脇芽が沢山出る (6/27)



↑ ・一つの脇芽を育てる (6/27)



↑ ・3回目の収穫後葉を切り追肥 (9/17)



↑ ・3回目収穫後の脇芽を一つ残す (10/12)



↑・4回目の脇芽が出た、追肥する(12/4)

収穫したら葉は2枚残り切除して追肥をする。8月の暑い時期は生育が落ちるが涼しくなると元気になる。

2021年の栽培



↑・1回目の収穫 葉を切り追肥(5/6)



↑・3回目の収穫 葉切りと追肥(6/21)



↑・4回目の収穫 葉切り追肥(11/13)

3. 結果

2020年～21年と2年間栽培したが良好であった。一年中キャベツの購入はしなかった。2022年の正月も畑に大きなキャベツがあり、外葉は霜にやられているが中はしっかりしていて食べられる。追肥して春に5回目の収穫が出来るか試験してみようと思う。

4. 考察

初夏の2回目の収穫の頃モンシロチョウが養生ネットの中に入り卵を産み付け青虫が発生したときはさすがに消毒を余儀なくされた。べト病の株は早めに根本は残し葉ごと撤去して新芽が出るのを待った。

収穫後の追肥は大事で株元の土とよく混ぜると生育が良い。株元の黄色くなった下端は早めに取り通風を良くして病気を防ぐとよい。春にとう立ちした脇芽はすぐに撤去し新たな脇芽を出させる。

5. まとめ

一回目の収穫は一度に来るので早めに順次収穫して収穫をずらすことでその後の収穫もずれ長い期間収穫できる為、家庭菜園向きの栽培方法であると思う。

参考文献 『野菜づくりの裏ワザ』